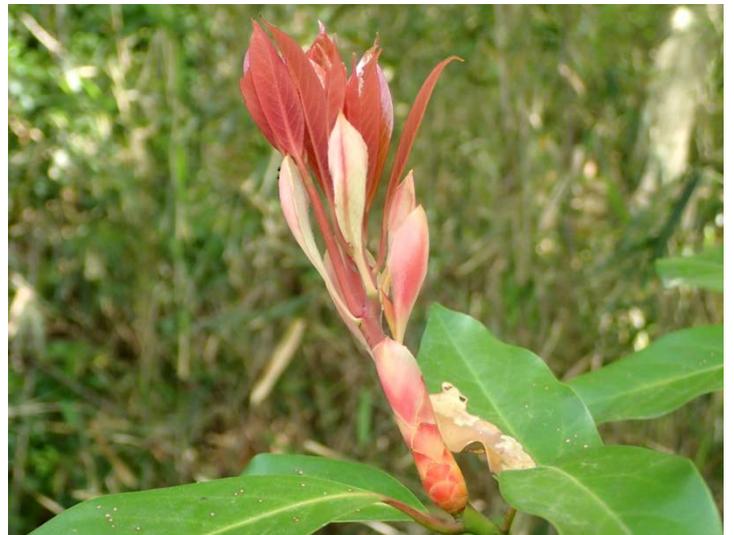


常緑樹の芽吹き

2016. 4. 19

つい先日、イヌシデやクヌギ、コナラなどの落葉樹が芽吹き、様々な中間色に彩られていた生態園の森も、しだいに、新緑の明るい緑色へと変化しつつあります。一方、落葉樹よりも芽吹きが遅い常緑樹の葉が、そろそろ開き始めました。普段は深い緑色をして、いずれもよく似た常緑樹の葉も、**芽吹きの時だけは、種類ごとに様々な色と形を示して個性的**です。ここではクスノキ科の樹木の葉を3種類、集めました。赤い葉がタブノキ、金色の葉がシロダモ、銀色の葉がハマビワです。常緑樹の葉は成熟すると硬くなり、タンニンなどの有毒物質も貯め込んで、昆虫に食べられてしまわないよう防御を固めるのですが、**芽吹いたばかりの葉は、まだ柔らかく無防備**です。葉を毛で被うのは、ガなどの**幼虫に食べられにくくする**効果があり、赤い色も、**幼虫には見えにくい**といわれています。芽吹きが示す色と形の多様性の中にも、それぞれの植物が生き抜いていくための知恵が隠されています。

(文・写真 原 正利)



タブノキの芽吹き。芽の鱗片と、その先に着く“へら状”の数枚の葉は、芽吹き後、じきに落ちてしまう。



シロダモの芽吹き。若い葉は金色の毛にびっしり被われ、新しい枝の先端から垂れ下がる。



ハマビワの芽吹き。葉裏は銀色の毛が密生する。芽吹き
の形態はタブノキに似ている。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



巨大なカズノコ？

2016. 4. 22

シュロの木に巨大なカズノコのような塊りがぶら下がっています。心なしか生臭い匂いがします。指で触るとブツブツして、粒が取れてくる感じも魚卵にそっくりです。これは何でしょう？実はこれがシュロの花（蕾）なのです。雄花と雌花があり、別の株に着きますが、2種類の花の外観はよく似ていて、遠目で区別するのは困難です。花は直径2～3mmと小さく、無数の花が集まって花序を作ります。この写真の蕾は一部、開き始めており、拡大してみると6本のおしべがありました。雄花のようです。雌花には3本のめしべ（花柱）が突き出しています。雌株には、雌花のほかに、おしべとめしべ両方を持つ両性花も着くようです。葉の付け根にある葉鞘（ようしょう）の繊維がシュロ皮の材料になり、人間の役に立つ身近な植物だったのですが、都会の森でどんどん増えて他の植物を圧迫してしまう性質があるため、最近ではやっかいもの扱いされています。（文・写真 原 正利）



巨大なカズノコのような花序。葉や花序の付け根は葉鞘の繊維に包まれている。



雄花。3枚の花弁に包まれて6本のおしべがある。



雌花。3本のめしべ（花柱）がある。



花火のような花：ヒメコウゾ

2016. 4. 26

クワ科のヒメコウゾの花が咲いていました。雌花と雄花があり、どちらもたくさんの花が集まって球形の花序を作り、枝先から垂れ下がります。雌花は、受精すると、6月末頃には赤いキイチゴのような実へと変化します。クワ科の植物には、花粉を虫が運ぶ虫媒花と、風が運ぶ風媒花とがあり、ヒメコウゾは後者です。風に流れる花粉を捉まえるため、雌花からはピンク色をしためしべの先端（柱頭）がとても長く突き出しています。さらに、その表面は小さな突起に被われ、花粉がひっかかり易くなっています。撮影した雌花序には、花粉ばかりでなく、風に流されてきた柳絮（りゅうじょ、ヤナギの種子の毛）が絡まっていました。隣には同じクワ科のヤマグワの雌花も咲いていました。こちらも雌花と雄花があって、別の株に着きます。花粉は、やはり風によって運ばれますが、柱頭はずっと短く、クルクルと丸まっています。
（文・写真 原 正利）



ヒメコウゾの雌花序と雄花序。右下に見える雄花序の蕾は、まだ開いていない。



ヒメコウゾの雌花序。柱頭は2本に分かれているが、1本は極めて短い（赤丸内）。白い柳絮がからまっている。



ヤマグワの雌花序。それぞれのめしべの先端にある柱頭は、2本に分かれ、丸まっている。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



ヤブデマリが花盛り

2016. 4. 30

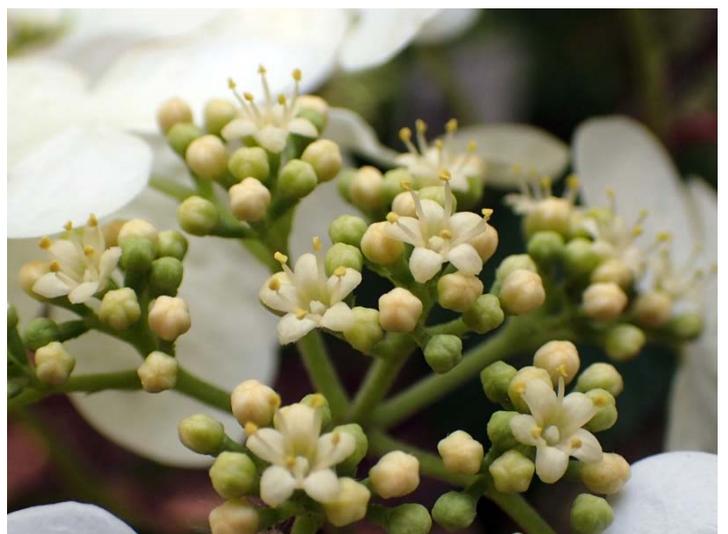
生態園のせせらぎの脇では、レンブクソウ科（旧分類：スイカズラ科）のヤブデマリが花盛りです。もともと谷筋に多く生え、流れを被うように平面的に枝葉を広げ、花を着けます。**ガマズミの仲間**ですが、ガマズミとは異なり、**アジサイのような白い大きな花びら**がとても目立ちます。近寄って見ると、たくさんの花が集まって花序を作り、周縁部の花だけが大きな花びらを持っていることがわかります。花びらは5枚ありますが、4枚だけが大きくなり蝶々のような形に広がっています。これらの花は**装飾花**と呼ばれ、**おしべもめしべも無く**、花序全体を目立たせるため、花びらだけが大きくなった花なのです。したがって、実を着けることはありません。花序の中央部には、ずっと小さな花がたくさん集まっています。小さな花びらが5枚あり、**5本のおしべと1本のめしべ**も見ます。こちらの花は繁殖のための**両性花**で、受精すると、夏には赤い実を着けます。（文・写真 原 正利）



開花したヤブデマリ。葉と花は横に平面的に広がり、幹に段々をなして着く。



アジサイのようなヤブデマリの花序。花序の周縁部には白い蝶のような花弁を持つ装飾花が着く。



花序の中央部に着く小さな両性花。花弁は5裂し、5本のおしべと1本のめしべがある。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



海浜植物が満開です！

2016. 5. 4

生態園入り口の海岸植生地で、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、コウボウムギなどの海浜植物が満開です。ハマヒルガオはアサガオやヒルガオなどと同じヒルガオ科の植物で、淡いピンク色の大輪の花を着けています。ツル性の茎は、上に伸びることなく砂地に沿って横方向に広がり、大群落を作ります。ハマエンドウはマメ科レンリソウ属の植物で、園芸植物のスイトピーと同じ仲間の植物です。花は美しい紫色をしています。やはりツル性で、他の植物に絡まるための巻きひげがありますが、茎は上に伸びるよりも砂地に沿って横方向に長く伸び、群落を作ります。海浜植物には分布域のとても広い種が多く、ハマヒルガオはほぼ世界中の海岸、ハマエンドウも北半球と一部は南半球の海岸に広く分布します。これは種子が軽くできていて海水に浮かぶため、海流に流されて広範囲に運ばれるため、海流散布と呼ばれています。
(文・写真 原 正利)



満開の海浜植物。ハマヒルガオ、ハマエンドウのほか、茶色の花穂を出したコウボウムギも見える。



ハマヒルガオの花。アサガオと同様に、花は1日で枯れてしまう。このような花を一日花と呼ぶ。



ハマエンドウ。花の色は赤紫色から青紫色へと変化する。下側に“サヤエンドウ”のような若い果実も見える。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



白い花の季節です

2016. 5. 14

初夏の到来を告げる花、**ウツギ**（**アジサイ科**）の花が今年も咲き始めました。ウツギは別名を**卯の花**（**うのはな**）といいます。今頃、つまり旧暦でいう卯月（うづき）の頃に咲くことからこの名になったといわれています。青葉の森交差点付近の生態園の外周に沿ってウツギの植え込みがあるのですが、今年は、塀の工事のため、冬の間枝を剪定してしまったので、花が少ないのは残念です。この季節、ウツギ以外にも白い花が目立ちます。**ノイバラ**（**バラ科**）も少し前から花を咲かせ、かぐわしい香りでハチなどの昆虫を呼んでいます。ハチは、足の腿の部分にたくさんの花粉を集め、背中部分にはランの花粉の塊をつけていました。森の中では、低木の**イボタノキ**（**モクセイ科**）が白い花を咲かせています。管状の小さな花で、2本のおしべを外に突き出し、良い香りを漂わせています。（文・写真 原 正利）



開き始めたウツギの花。めしべの先端は3、4本に分かれる。おしべは10本で、先端部を除き、翼があって平たい。



ノイバラの花。多数のおしべがある。ハチの背中に着いたラン（シラン?）の花粉の塊に注意。4月30日撮影。



イボタノキの花。おしべは2本で、花管の内側に着き、先端が花の外に突き出す。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



ヤブヘビなイチゴ?

2016. 5. 14

生態園の園路の脇で、ヤブヘビイチゴ（バラ科）が赤い実をつけています。名前の由来は、藪蛇なイチゴではありません。**藪ヘビイチゴ**です。近縁種のヘビイチゴが明るい場所に生えるのに対し、林の縁や藪など暗い場所に生えるのでこの名がつけました。イチゴの仲間の実は**偽果（ぎか）**と**いって、植物学的には本当の果実ではありません。丸く膨らんでいるのは花の一番下の部分（花床かしょう）**で、その周りについている粒々のひとつひとつが本当の果実です。ちょうどこの時期、同じバラ科のサクラの実（サクランボ）が落ち始めていますが、小さなサクランボがたくさん着いているのがイチゴの実と思えばよいでしょう。ヘビイチゴとヤブヘビイチゴはとてもよく似ていますが、本当の果実の表面がしわだらけなのがヘビイチゴ、しわがなく光沢があるのがヤブヘビイチゴです。実は食べても無毒ですが、甘味は無く、おいしいとは言えません。（文・写真 原 正利）



ヤブヘビイチゴの葉と実。葉は3小葉に分かれる。ヘビイチゴと比べ、小葉の先がややとがるのが特徴。



ヤブヘビイチゴの偽果。表面に多数の果実が着く。偽果の基部には、上向きのがく片と下向きの副がく片が見える。



偽果の断面。膨れた花床の内部は白く、水分が多い。表面に着く果実は、光沢があり、上向きに歪んでいる。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

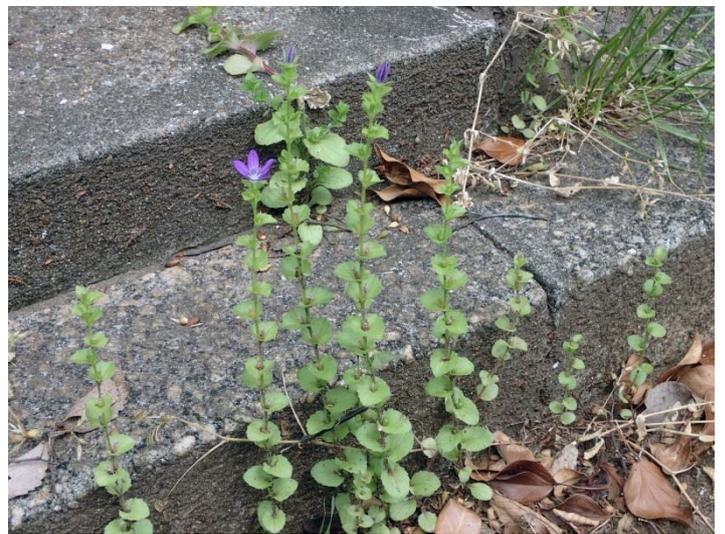
千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



ロールカーテン付き窓のある果実 キキョウソウ

2016. 5. 25

生態園や近辺の道脇、縁石のへりなどに、**キキョウそっくり**の小さな美しい花が咲いています。北アメリカ原産の帰化植物、キキョウ科のキキョウソウです。茎は、先端に次々と花（**最初のうちは閉鎖花**）を着けながら、枝分かれすることなく**真っ直ぐ伸びていきます**。花も美しいのですが、この植物で面白いのはその果実。側面に楕円形の窓が、2、3個、開いていて、長い茎が風に揺れると、この窓から種子がこぼれ落ちる仕組みです。窓は最初から開いている訳ではなく、その部分の**果皮がとても薄くてできています**。ただし、楕円の長径方向の中央部分だけは厚く、果実が熟して果皮が乾燥してくると、この厚い部分が上向きにクルクルと丸まり、**両側の薄い果皮（カーテン部分）を上側に巻き上げる**仕組みです。ロールカーテンの仕組みと全く同じとあってよいでしょう。植物の知恵には驚くばかりです。ちなみに、英名は、**venus looking glass（ヴィーナスの姿見）**と言う洒落た名前がついています。（文・写真 原 正利）



風に揺れやすいよう、茎は1本で細長い。茎の下方には閉鎖花しか着けないので、茎が短い間は目立たない。



左側の花は雄性期。雌しべの先は閉じ、雄しべが伸びている。右側の花は雌性期。雌しべの先が開き受粉する。



窓の中に種子が見える。果実の先に残るがく片は3枚で、左の写真（5枚）とは異なる。閉鎖花由来の果実らしい。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



シラミのような果実ーオヤブジラミ

2016. 5. 25

生態園内の木陰の道脇にオヤブジラミ（セリ科）がたくさんの実を着けています。名はたくさんの小さな果実がシラミのように見えることからつけられたものでしょう。嫌われ者のシラミが名に付く植物は、この種と、近縁のヤブジラミしか思いつきません。種子は、果実ごと動物の毛に絡まり付いて運ばれるタイプ（動物付着散布）、いわゆるひっつき虫です。ひっつき虫は、秋に、オナモミやセンダングサなど様々な種類が見られますが、この季節に見られるのは、まだ珍しいといえます。4月末には小さな白い花を着けていたのですが、1か月ほどで、子房がずいぶん膨らみ、果実らしくなりました。シラミに例えられた果実も、拡大して見ると精巧で美しいことに驚かされます。小さな曲がったトゲの表面に、さらに小さなトゲが無数に付いていて、一度、毛に絡み付いたら取れにくくなっています。この果実をシラミと呼ぶのはかわいそうな気がします。（文・写真 原 正利）



白いトゲの生えた小さな果実がたくさん着く。葉はパセリに似ている。



花。4月30日撮影。花びらは5枚。



拡大した果実。先端に2本のめしべが残る。トゲは、一度絡み付いたらはずれないよう、先端に返しもついている。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481



ドクダミの花が満開です

2016. 6. 1

葉の緑も濃くなってきた森の木陰で、ドクダミ（ドクダミ科）の花が満開です。葉に独特の匂いがあるので、嫌いな方もいるかもしれませんが、とても美しい花です。白い4枚の花びらのように見えるのは、**花びらではなく、総苞（そうぼう）と呼ばれる葉の1種**です。その上に本当の花が円柱形の花序にたくさん着き、下から上に向かって順々に咲いていきます。**本当の花に花びらはなく、雄しべは3本、雌しべは中央がくぼみ、3本の柱頭**（ちゅうとう、受粉する部分）が出ています。大部分は雄しべと雌しべを持つ両性花ですが、よく見ると、雄しべだけからなる雄花も混じっているようです。花粉を出す雄しべと花粉を受け取る雌しべは、ほぼ同じ高さにあり、花粉を食べにくる**ハナアブなどの昆虫によって受粉**すると思われます。**ドクダミ科は4属5種からなる小さな科**で、コショウ科に近い、比較的、原始的な植物です。（文・写真 原 正利）



満開のドクダミ。オヤブジラミの果実も見える。



白い4枚の総苞片の上に、細長い花序が伸びる。
花は下から上に咲いていく。



黄色く見えるのが雄しべのやく。白く見える柱頭は凹凸があり、花粉が付着しやすくなっている。

この内容は、NHK Eテレ「趣味の園芸」に関するウェブサイト「みんなの趣味の園芸」に掲載される生態園のブログでも、ご覧いただけます。また、内容の無断転載は堅くお断りします。

千葉県立中央博物館 〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2(青葉の森公園内) TEL:043-265-3111 FAX:043-266-2481

